三 頭 山　1泊ハイキング　49団 BS隊

2015年秋、ボーイスカウト川崎49団BS隊は奥多摩「三頭山」の登頂を果たした。これはその時の記録である。

■ 11月21日（土）

・7：00　JR武蔵溝の口駅　集合

スタート前からアクシデント発生。イーグル班班長が道路交通事情により少し遅れるとの連絡を受けた。若干の遅れは想定内。スカウト家族に見送られ、7：20の電車で溝の口を出発した。

・8：11　立川駅　発

JR特別快速ホリデー快速あきかわ3号に乗車。この電車は、途中拝島駅で前後が切り離され、前の車両のみが我々の目的駅となる武蔵五日市駅まで運行される。後部の車両は奥多摩駅へ向かうため乗車位置への注意が必要だ。行楽・紅葉シーズンでもあり電車は相当混み合っている。

・8：48　武蔵五日市駅　着

駅前広場はハイカーでにぎわっている。乗車予定のバスは9時発だが、既に長蛇の列が。バスが増発されることは確認済みのことでは有るが、この先、登山道の混雑が懸念される。4台が増発され、予定時刻を少し過ぎたが我々も無事乗車。出発した。

しかし満員である。着席することはできなかった。曲がりくねった道をバスは進む。一人、またひとりとスカウト達が体調を崩し始めた。ビニール袋を渡ししばらくの間、辛抱してもらうしかない。途中下車の方がいらっしゃるたび、気分を悪くしたスカウトを座らせる。そうこうするうちにバスは予定の「仲の平」バス停へ到着。一安心だ。

・10：00　仲の平　着

仲の平バス停より約200m進み、公衆トイレが整備された駐車場で身支度を整えた。制服から活動着に着替え、靴ひもを確認。今は多少涼しくても、歩き始めると熱くなので、若干の我慢を勧める。休憩時、体を冷やさぬ為すぐに上着を羽織れるようザックの上部に準備しておく。また、ハイキング中走らない、ジャンプしない、急に立ち止まらない等々ハイキング中の注意を確認し出発した。　10：30　発

バス停の手前まで戻り、右に折れ進む。この辺りはまだ舗装道路ではあるが道幅は極端に狭くなる。点在する民家の脇道に入れば、ここからは山道となり、ようやく「ハイキング」らしくなる。

・11：10　10分間小休止

登山道を40分ほど歩き、適度な広場で小休止。10分の間で、水筒で喉を潤し、ドロップ等の行動食で英気を充電する。バスで体調を崩したスカウトが居た事は既に忘れられている。皆元気だ。アッ！という間に10分が経過し荷物を背に出発となる。

・12：00　昼食休憩

後ろから「ハラヘッター」の声が聞こえます。時計も12時を回っている。右手には今回の目的地「三頭山」が遠望出来ます。ベストロケーションです。昼食休憩としましょう。

スカウト達はいたって元気。2年ほど前実施した「鷹ノ巣山」1泊ハイク時はへこたれていたスカウトも今回はそんな様子は微塵も見せません。歳下スカウトを気遣う余裕まで。素晴らしい成長です。12：40　発

・13：00

山梨県～東京都の都県境尾根に出ます。「休みたい。休もうよー」の声が聞こえますが、無視。あとすこしで「槇寄山」の山頂。ベンチもあり「富士山」の展望も良好なのですから。

・13：05　槇寄山　着　小休止

「槇寄山」到着。テーブル、ベンチがセットされ、西方が開けた山頂です。「富士山」「南アルプスの山々」が遠望出来ます。遠景の景色を堪能するため15分と少し長目の休憩としました。

三頭山遠望

小休止となるとスカウト達は元気を取り戻します。今は休憩タイム。元気は歩行中に発揮してほしいのですが。

E班

T班

・13：20　槇寄山　発

今までは、視界の少ない森の中を歩んで来ましたが、ここからは尾根道が続きます。視界も所々で開けます。西側にはたえず「富士山」が付き添うように存在します。

小さなアップ・ダウンを繰り返し一歩一歩「三頭山」に近づいていきます。登山道には岩肌が現れ岩を踏むにつれ、次第に高度が高まってきた感が伺えます。

「休みたい」の声を無視しつつ少しがんばり、歩みを進めます。

・14：10　小休止

少し長く歩きました。「休みたい」の声の間隔が狭まり、そろそろ限界か。尾根道の谷部で少し長めに小休止。この後は長い登りが続きます。本日最後の大登りとなります。行動食で英気を蓄えます。この後は、一気に本日宿泊地「三頭山避難小屋」まで、歩みを進める予定です。

・14：25　出発

本日最後の登りです。なれないスカウトには果てしなく続くきつい登り坂。いつまでも終わりがありません。途中右手に「三頭の大滝」への分岐を分ける辺りでは水平道になりますが、またすぐに登り始めます。この登りの頭部が「大沢山」となり、山頂を廻り込むと、前方に避難小屋の屋根が突然視界に入ります。少し下り、「三頭山避難小屋」に到着しました。

・15：15　避難小屋　着

避難小屋には先客が2名。おばさんパーティーです。このままのメンバーですと小屋の中はのんびりできるのですが・・・。

早速全員のウレタンマット、寝袋を端から広げ、寝床を確保します。この先登山者が増えてもとりあえず安心できます。

班長2人、隊長とで水汲みに向かいます。小屋から登山道を5分ほど下れば一応の水場はありますが、本日水の出は悪いです。班長2人にその場を任せ、米とぎをお願いし、隊長と2人さらに沢を下り新たな水場を求めました。隊長が持参した折畳みポリタン、スカウトの持物ペットボトルに給水、総ての容器に水を貯え、ザックに納めます。隊長がザックを担ぎ歩き始めると「アッ！冷たい。水漏れてるよ～」と。今更どうしようもありません。冷たいようですが（本当に冷たい思いをしているのは隊長ですが）「がんばれ」の一言。急な斜面を這う様に登り、何とか登山道に出ました。その間、班長2人は無事米とぎを終了させています。2人と合流し、避難小屋に戻ります。

夕食は、各自持参したレトルトカレー、柑橘果物です。何人かのスカウトがラップを持参しています。食器にかぶせ食器洗いの手間を考えたようです。（事前の創意工夫が出来、良いことです）貴重な水で食器洗いは出来ません。一般的には食事終了後、少量のお湯で食器をすすぎ、最後はティッシュで拭き取ります。ゴミも極力少なくしたいのです。

夕食の終了が18時過ぎ。その頃には避難小屋は満杯です。先に寝具を敷き並べておいて正解。明日の起床は4時の予定。20時には自然と全員就寝となりました。

■ 11月22日（日）

・4：00　起床

まだ真っ暗です。他のパーティーは既に身支度を始めています。小屋の外は「霧」「雨」？いやいやここは「雲」の中です。

湯を沸かし昨夜焼いておいた各自持参のお餅を茹でます。食器にはインスタントお吸い物を準備湯を注ぎ、もちを投入すれば、即席雑煮の完成です。スカウトが持参したもちの数を確認しつつ器に取り分けますが、なぜか二切れ余りました。再度確認しても該当者は現れず、二切れは隊長と私の胃袋に収まります。

・5：50　避難小屋　発

ヘッドライトの明かりを頼りに「雲」の中を進みます。これ、一人だとものすごく不安なのですスカウト達も不安なんですね、自然と仲間を励まし合います。すごくいい光景ですね。

15分ほど登れば「三頭山西峰」に出ました。でもここはスルーし、一気に「中央峰」「東峰」と進め、その先のある「展望台」で小休止とします。

・6：15　展望台　着

予定では、この場所で、ご来光を仰ぎ、スケッチ、ハイクの俳句を作成する予定でしたが、御覧のありさまです。ご来光、スケッチを諦め、ハイクの俳句のみの作成となりました。

◆ ハイクの俳句　Ｔ班 ◆

秋の山　キリの中でも　楽しいな

SNスカウト

白いきり　歩くと聞こえる　雨の音

MTスカウト

山登り　雲の上まで　登ったよ

KMスカウト

頑張って　きたけど霧で　みえないよ

YSスカウト

霧だらけ　きれいな景色は　夢だった

YHスカウト

山の上　きりで地味に　美しい

RHスカウト

帰ったら　写真を見てね　こんなもん

MYスカウト

◆ ハイクの俳句　Ｅ班 ◆

きりの中　悟りひらいて　景色見る

RSスカウト

キリの山　木がにごって　見えません

ＹＩスカウト

なぜきりが？　苦労したのに　殺風景

ASスカウト

雲の上　きりでぜんぜん　みえないな

RHスカウト

きりの中　展望台は　すずしいな

ＨＳスカウト

どこみても　しろい世界に　木の姿

ＲＳスカウト

ご来光は残念でしたが、「雲」の中のため、木々のシルエットとがとても美しいです。スケッチが無くなりましたので、予定を早め出発します。

６：45　発

・7：20　見晴小屋　着

このあたりは、東京都が管理する都民の森の中です。先ほどの「展望台」こちらの「見晴らし小屋」などが設置されています。もちろん登山道も階段などが整備され誰もが歩きやすく？なっています。

まだまだ「雲」の中。体を冷やさぬよう15分間の小休止とします。行動食を補給し、再び歩き始めます。整備された登山道を今しばらく下れば鞘口峠へ到着。ここでで都民の森とは別れ、北方に進路を変え奥多摩湖に向かう最後の下りとなります。ここからは、尾根道を分かれ、沢筋の登山道となります。もう登り坂はありません。

「もう登りは無いよ」と伝えると歓喜が上がります。そのうち登り道が恋しくなるのですが。

・8：05　鞘口峠　通過

スカウトは小休止を期待していたようですがスルーし進みます。しばらく行くと、沢沿いの登山道となり、水音が心地よく伴走してくれます。スリルある木橋をいくつか渡り順次、高度を下げます。いつの間にか「雲」の中を抜け、天候は曇り空となっていました。

・8：30　小休止

多少開けた場所を確保し小休止とします。奥多摩周遊道路まではもう少しです。恒例の行動食で英気の補充を。　8：40　発

・9：05　奥多摩周遊道路横断

最後の休息地、「ふるさと村」へはあとわずかです。落ち葉が多く登山道が明確ではありません。目を凝らし、踏み跡を探し進みます。多少間違えても支障はないのですが、最短距離を歩みます。

・9：25　ふるさと村　着

最後の小休止となりました。公設のキャンプ場の中です。トイレもあり、できればのんびりしたいのですが急がねばなりません。やむを得なく出発します。　9：35　発

奥多摩湖畔に設けられた遊歩道を2㎞ほど進み「浮橋」を目指します。湖畔に面した木々の紅葉はとてもきれいです。陽が出ていればもっと鮮やかなことでしょう。ちょっと残念ですね。

・10：20　浮橋　通過

何とか間に合いそうです。浮橋を渡り道路へ出ればそこが「小河内神社」のバス停となります。

・10：35　小河内神社バス停　着

実は、「ふるさと村」到着時から、ここでのバス時間を気にしていました。田舎の事ですので、予定のバスに乗り遅れると1時間半待ちとなってしまうのです。とりあえず一安心出来ました。

バス停到着後、交通ＩＣカードの準備を指示し、バスを待ちます。あれ、スカウト1名、ザックをひっくり返し、カードを探しています。バスはもうすぐそこに見えています。「あったー！」急ぎ荷物をまとめバスに乗車。間一髪のセーフ。

・10：41　小河内神社　発

私も、スカウトも心身共に安堵。早くもスカウトの寝息が聞こえます。

・11：05　奥多摩駅　着

バスを降りそのまま多摩川の河原に向かいます。河原で昼食とします。

昼食の前に、無事下山を祝し、全員ポカリで乾杯。昼食は、非常食として持ち歩いたインスタントラーメンを調理します。デザートは行動食。もう必要ありませんのでここで完食とします。

駅前でポカリを購入時、おいしそうなバナナが並んでいたので、合せて購入したので、それも食べました。結構おなかがいっぱいとなりました。

・13：09　奥多摩駅　発

奥多摩駅は始発駅のため全員の着席が叶い、青梅駅、立川駅と乗換え、予定通り武蔵溝の口駅へ到着。解散となりました。　15：10　解散

スカウトの感想文

■　Ｅ班

ＲＳスカウト

僕は今回のようなハイキングが２回目だ。１回目は先輩の方に助けられながら登っていたが、今回は自分たちが助ける側である。なのに、助けるどころか足を引っ張っている。あの時に助けてもらった中島班長のようなかっこいいことはできなかったし、歩くだけでもせい一杯だった。

果たしてこんな僕は頼りにしてもらえるのか。班長なのに班員の足を引っ張っていいのか。

このような経験を生かして、絶対に頼られる班長になりたい。班員を助ける事の出来、皆を引っ張っていけるような班長になって見せる。

ＹＩスカウト

今回の１泊ハイキングは、とても山がきれいでウキウキしながら登っていました。山登りは、いつも高尾山を登っているので慣れています。でも、下りが湿っていて足が滑り転んでしまいました。下りはやはりテンションが下がりますね。（もしかしたら、イーグルだけかも）

ＡＳスカウト

ぼくはまだボーイに上がって短いので、初めての１泊ハイキングでした。

１日目は「よし、がんばるぞ！！」って感じでしたが、本当に死ぬかと思いました。いつまでもいつまでも歩きっぱなしですごくつらかったです。でも、山小屋（避難小屋）についた時のうれしさはすごかったです。

ちなみに、ぼくはミカンがきらいでしたが、何日か前に１個食べ、給食で１個食べ、この１泊ハイキングでも食べて、ミカンが逆に好きになりました。

２日目、元気も回復し、準備もバッチリで行きました。が、朝早く出たため、もう６時間歩いたか？と思って時計を見ると、まだ９時か１０時ぐらいだし。でも、後半からはもう平地が下り坂を行くだけだったから、まあまあ苦にはなりませんでした。でも、スカウトでの、すごく良い経験になったと思います。

ＲＨスカウト

登る前は、こんなに大きな荷物で登れるのかな。「つらすぎて言葉が出ないことがないのかな。」などなどいろいろ心配があった。

登る前とてもきんちょうしていたけれど、木がポッキーやプリッツに見えたり、友達が変な歌を歌いはじめて笑ったりしていたので楽しかった。休けい所では、景色がとてもきれいだった。写真を撮りたかったけど、カメラが無くてざんねんだった。

下りの時は、雲の中にいて、右も左もガケで、太陽があたっているガケと、あたっていないガケで天国とじごくみたいに明るさがちがって、かげになっているガケは、とてもこわかった。雲の中にいるときは、さむくてあまりしゃべらなかったけど、雲を出て川ぞいを歩き始めたら会話が始まってとても楽しかった。でかい石がいっぱいころがっていて、足をたくさんくじいたのに、ぜんぜんいたくなくて足首がふにゃふにゃになってしまった。

とても楽しかったです。

ＨＳスカウト

山道。みなさんなら登りと下りどっちが大変だと思いますか。僕は、下りの方が大変だと思います。なぜなら、精神的に疲れと体力がなくなり、休みたくなってしまうからです。

逆に、登りはと言うと、登った数ほど景色がキレイになってとても楽しめるからです。今回登った三頭山の山小屋から見えた富士山と夕日がとても美しかったです。

今の事から山は、低い山から高い山を見て楽しむ方が僕は楽しめると思います。

でも、まだ楽しいことはたくさんあります。それは、登った後のご飯です。そのご飯はカレーライス（ハヤシライスもいた）です。

白米と絡み合うルーとのコラボでとてつもなくおいしかったです。

そこでさっきの景色が見られてとても楽しかったです。

■　Ｔ班

ＳＮスカウト

今回が2度目のハイキングとなりました。前々回では、1700m級の山に登り、次に1500m級の山でした。2つを比べて一番おどろいたのは、たった200mの差しかないのにその200mのちがいが、とても大きく、思っていた以上の楽しいハイキングとなり、自分も前々回の山ではすごくへこたれてしまったので、すごく心配でしたが、楽しく登ることができました。

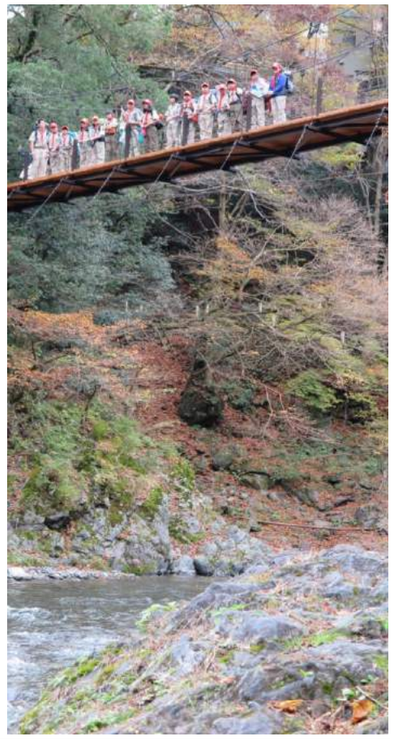
富士山も登るにつれとてもそうだいに見えるようになり、とても素晴らしいけしきを見る事の出来たハイキングだと思いました。

避難小屋についた後、班員の安心した顔を見るととてもとても自信を持って登ってきた、ということを実感しました。班長2人と隊長、山川さんで水を汲みに行った時はとても驚きました。10㎝ほどのわき水をカップを使って水をくんだのはとても驚きました。南雲隊長のすごい力にもとても驚きました。

2日目は雲？ガス？１m先が見えない状態で出発しました。

階段つづきで、けっこうおどろきました。ふつうの山道だと思いましたがとても急でつらかったです。山頂からは何も見えずざんねんでした。

下山は道がとてもぬかるんでいて、とてもすべりやすく、こけている人も何人かいました。下山のまん中あたりから沢の横を降りていきました。こけですべりやすかったですが、とてもきれいな景色を見れたので良かったです。下山した後は川岸でラーメンを食べました。その前に、カンパーイ！！まだ終わったわけではないけれどもみんなとも団結力が高くなった事を実感したので良かったです。



ＭＴスカウト

私は、ハイキングで楽しかったことは、浮橋を渡った事、最後に川辺でラーメンを食べた事です。なぜなら、浮橋は初めてだったからです。ガタガタしているし、十何人かが重いリックを背負って渡るとさらにガタガタして楽しかったです。海も向こうまで見渡せるし、川のにおいがとても良かったです。川辺で食べたラーメンもおいしくて、家で食べるより100倍おいしく感じました。登山中はあまり疲れなかったけど、山小屋で体中が痛くなって疲れました。寝るときすぐ眠れないと心配だったけど、ぐっすり眠れました。

山頂で景色が見られなくて、残念だったけど、下りの山を出た時とってもいい景色でびっくりでした。家に帰っても痛みは止まらず、大変でした。でも改めて三頭山に登ったんだなと振り返ると「達成感」があって自信がつきました。これからのキャンプに生かしたいです。

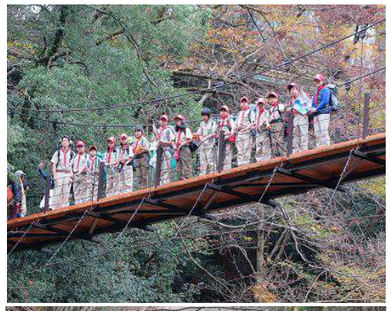
ＫＭスカウト

ぼくは山登りがすごく楽しかったです。なぜなら同じ班の人と一緒に話ながら登ったり、いつもは班でハイキングすることが多かったけどイーグル班とも一緒に隊で登ることが出来たからです。

とくに楽しかったのは三頭山の避難小屋です。すごく多い人数で少しきついと感じたけれどいつもとは違うハイキングに感じました。なぜならばぼくはキャンプ・登山りはしたことがあったけど一泊とまるハイキングはしたことがなかったけど、初めてやってみてすごく楽しかったからです。

ほかには、いつも家族で登っている時のハイキングよりも険しい道のりで、すごく達成感でおもしろかったです。リュックは少し大きめか小さめか迷ったけれど新しく４０ℓのリュックを使いました。みんなで食べたラーメンやカレー、もちなどいろいろな料理を食べるのも話しながら食べてすごく楽しかったです。

ぼくはこれからもこういう楽しいハイキングやキャンプを通してボーイスカウトの活動を続けていきたいと思いました。



ＹＨスカウト

私は、初めての1泊ハイクでとてもドキドキしてしまいました。クツもくつずれしないようにたくさん使って、リュクもできるだけ軽くしました。もう準備ばんたんだと思っていたのですが・・・。失敗多数でした。

まず最初の失敗は、薬を飲み忘れた事です。これは準備とか全く関係ありませんが、失敗として入れます。私はじんましんがでるので本当にヤバかったです。特にくつ下の所がムレてすごいでました。かゆかった。

二つ目が寝袋のつけが甘かったことです。これはすごく困りました。歩いている途中３回くらい落ちました。寝袋が本当にじゃまでした。

最後は、くつずれしたことです。結構はいたと思っていたのですが、なにしろ１週間前だったもので・・・。すごく足が痛かったです。クツひもがうまく結べていなかったのかもしれませんが。

まあ成功したこともあったので書きます。一つ目はリュックを軽くしたことです。必要最小限のものしか持ってきてないし、リュックも軽めの物を使いました。それが良かったようでした。

二つ目は、服を多めに持ってきたことです。さっき必要最小限と書きましたが、山だから服はたくさん持ってきました。リュックに入れるときは、こんなにいるのかと思いましたが、やっぱり必要だったようです。

ここまで書いて私はふと思いました。私が書いているのは感想じゃなくて成功したことと、失敗したことではないか、これでは感想の作文とは言えない。

ということで感想書きます。えっと感想と言ったら、「つらかった」「寒かった」「頂上行ったのにキリだらけだった」だけですが、これでは作文とは言えないので詳しく書きます。

まず一つ目の「つらかった」です。これは私の一番そっちょくな感想です。最初は平気だと思っていましたが１５分くらいでゼイゼイ言っていました。自分ってこんなに体力ないのかと思ってちょっとショックでした。

二つ目の「寒かった」は、私が生まれて初めて味わってたものすごい寒さです。私は暑がりなので３枚くらい着ればいいでしょうと思っていました。しかしその意見は甘かったようです。実際５枚着ても寒かったです。しかも朝ご飯がお雑煮だから暖かくなるかと期待していましたがゆっくりしすぎてものすごく冷めてしまって逆に寒くなりました。

最後の「頂上行ったのにキリだらけだった」は、私が最もショックだったことです。イメージはきれいな山の間から日が出ていてものすごく感動する的な感じだったのですが、まあ現実はそう甘くないみたいな感じで葉っぱが全く無い木が並んでいるだけでした。俳句にも「キリだらけ　きれいな景色は　夢だった」と書きました。まったくその通りです。

とにかく、１泊ハイクは失敗が多くて、つらかったということを分かってくれれば充分です。これから失敗は改善していけばいいし、つらいというのはたくさん山とかに登って、体力を上げていけばいい話なので、くれぐれも感想に楽しかったとかが入ってないとかいって、ぐちらないでください。お願いします。

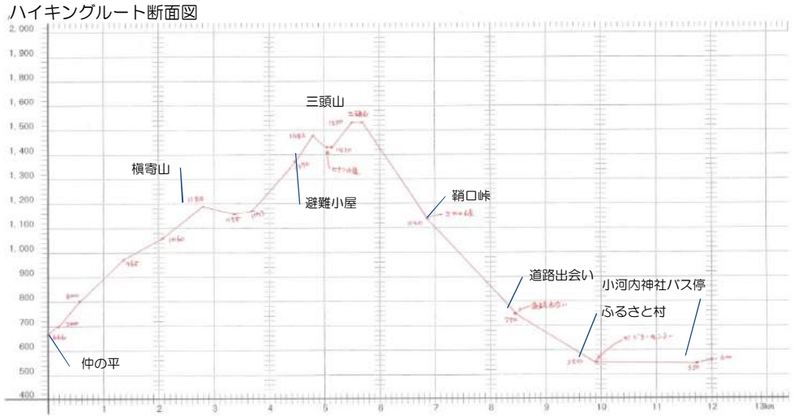
ＹＳスカウト

今回の山登りでは、鷹ノ巣山よりは少し楽だったような気がします。山に登る前のアスファルトでは早速山下さんがつかれたと言って後になってきて少し心配でしたが、その予想は当たって、けっこう後で足をひねるなどケガがありましたが、何とか避難小屋まで来ました。

ご飯は、けっこううまかったです。たぶんインスタントだとは思いますが。

次の日では、まだ暗い山中を登り、何とか三頭山の山登りまで来ましたが、景色はキリが濃くて何にも見えませんでした。下山の時は、上り坂が少しの休憩と思ってしまうほどつらかったです。でも、みんなあきらめず、最後までやりきったという達成感は最高でした。

ハイキングルート断面図



ＭＹスカウト

朝早く家を出た。溝の口駅まで送ってもらってそこで集まってから山までみんなで行った。山がある駅に着いたらトイレに行った。それから満員のバスで山のふもとまで行った。

僕も他の仲間もバスで酔ってしまった。今回の山は、あまり標高は高くなかったけど、意外と足が痛くなった。ゴツゴツしていたからかな？。ゴツゴツした山肌ばかりでなく、川の周りも歩いたが、そこはすごく気持ち良かった。川では魚が見えなくて残念だった。そして橋を渡った時は楽しかった。

２日目に霧の中を歩かなくてはいけなかったのは少しいやだったけど、歩いてみると冷たくてそれはそれで気持ち良かった。ただ、景色が見れなかったのは残念だったが・・・

余談だが、優真のバックに蜘蛛みたいなのが乗っていて皆は気付かなかったけど、自分はどうすればいいのかわかんなかったので、とりあえず、払っておいた。それとハイキング中に食べたブドウ糖がすごく美味しかったので、その後家で買って食べた。プルーンも美味しかった。

本当に楽しい一泊ハイキングだったが、今度はもっとゴツゴツしてなくて、高い山に登りたいと思った。もうすでに次のハイキングが待ち遠しい。

三 頭 山 案 内 図

◎；小休止ポイント　　南から北に向かって歩きました。地図上の歩行距離は約12㎞です。